

アンケート結果概要

1 市民アンケート調査項目

人づくり		
1	生きがいの有無	成人の約7割が「ある」、約2割が「思いつかない」と回答
2	生きがいの内容	成人の半数以上が「趣味・レジャー」、「家族やペット」と回答、社会活動との回答は約5%
3	「地域共生社会」の認知度	市民の認知度は2割程度、半数程度が「知らない」と回答
4	市民活動への参加意欲	参加意欲のある成人は3割程度、27%が「参加するつもりはない」、3割以上が「わからない」と回答
5	市民活動へ参加しない理由	約4割が「仕事や家事が忙しく活動する時間がない」、約3割が「興味・関心がない」と回答
基盤づくり		
1	現在住んでいる地域に今後も住み続けるために必要なもの	成人の半数以上が「買い物できる店舗」と回答、「支え合える地域の互助」は2割未満
2	医療サービスの利用頻度	成人の約6割が利用する（「よく利用する」「たまに利用する」と回答
3	自分自身または家族の状態への不安	成人の8割以上が「無回答（ない）」、約4%が「ひきこもり」、「社会から孤立しているひとり暮らし」と回答
4	保健福祉サービスに関する情報提供の満足度	成人の半数程度が「ほぼ満足」と回答
5	保健福祉サービスに関する情報提供に対する不満の理由	約3割が「広報紙が届かない」、「出前保健福祉講座がいつ行われているかわからない」と回答
6	今後、市が特に優先して取り組むべき保健福祉に関する取組	約3割が「身近なところでの相談窓口の充実」、「高齢者、障がい者のサービスの充実」と回答
地域社会づくり		
1	気軽に行ける居場所	成人のおよそ半数が「商業施設」と回答、約2割が「ない（わからない）」と回答
2	新型コロナウイルス感染症の拡大による生活の変化	成人の約6割が「交流の機会が減少した」と回答
3	地域の「絆」や「つながり」	「感じる」と回答した成人は3割未満
4	地域の「絆」や「つながり」を感じる場面	約9割の成人が「あいさつや会話ができる」と回答
5	心配事や愚痴を聞いてくれる人	成人の半数以上が「配偶者」、4割以上が「兄弟姉妹・親戚・親・孫」、「友人」と回答、約5%が「いない」と回答
6	看病や世話をしてくれる人	成人の約6割が「配偶者」と回答、約6%が「いない」と回答
7	隣近所にしてほしい手助けの内容	成人の約半数が「特にない」、約4割が「災害時の手助け」と回答
8	隣近所に自分ができる手助けの内容	成人の半数以上が「災害時の手助け」、約3割が「話し相手」、約2割が「特にない」と回答
9	災害時の避難の際に頼れる人	成人の7割以上が「同居の家族」、約16%が「隣近所の人」、約4%が「災害時要援護者支援制度における避難支援者」、約8%が「いない」と回答
10	知人・友人・近隣住民の状態の把握	成人の8割以上が「無回答（把握していない）」と回答
11	地域でのたすけあいで協力できる活動	成人の約3割が「地域の清掃やエコ活動」、約2割が「携帯などからの募金」と回答

2 主な結果

(1) 心身の健康などについて

①現在の健康状態（全世代，障がい者）

現在の健康状態をたずねたところ，【よい】と【まあよい】の回答をした市民（全世代）の割合は86.4%であり，若年層ほど高かった。なお，高齢者を対象とした同調査によると，本市81.5%（2016年）と比較して今回は72.7%と低くなっており，全国157市町村76.2%（2020年）と比較しても低くなっている。また，市民（障がい者）の同割合は61.6%となっており，特に知的障がい者については81.3%と高くなっている。

表 現在の健康状態【よい】と【まあよい】の割合（単数回答）

	小学生	中高生	若年期	壮年期	高齢期	合計
男（一般）	95.8%	95.7%	87.7%	77.8%	71.8%	86.0%
女（一般）	97.9%	94.0%	84.1%	78.1%	73.7%	86.7%
計（一般）	96.9%	94.8%	85.7%	78.0%	72.7%	86.4%

	身体	知的	精神	合計
障がい者	56.6%	81.3%	46.3%	61.6%

②現在の幸福度（全世代，障がい者）

現在の幸福度について0点（とても不幸）～10点（とても幸せ）でたずねたところ，【8点】以上と回答した市民（全世代）の割合は52.5%であり，壮年期は38.2%と最も低かった。なお，高齢者を対象とした同調査によると，本市48.9%（2016年）と比較して今回は40.2%と低く，全国157市町村45.6%（2020年）と比較しても低かった。また，市民（障がい者）の同割合は25.7%となっており，特に精神障がい者については12.2%と低くなっている。

表 主観的幸福感 11段階評価の8点以上割合

	小学生	中高生	若年期	壮年期	高齢期	合計
男（一般）	73.2%	59.0%	37.6%	35.2%	36.3%	49.6%
女（一般）	79.8%	57.7%	43.0%	41.0%	44.7%	55.1%
計（一般）	76.7%	58.3%	40.6%	38.2%	40.2%	52.5%

	身体	知的	精神	合計
障がい者	30.6%	32.0%	12.2%	25.7%

③寂しさの感じ方（全世代，障がい者）

寂しい気持ちを日ごろ感じるかたずねたところ，【とても感じる】と回答した市民（全世代）の割合は4.1%であり，性別では女性が高かった。また，市民（障がい者）の同割合は14.1%となっており，特に精神障がい者については26.4%と高くなっている。

表 寂しさをととても感じる割合

	小学生	中高生	若年期	壮年期	高齢期	合計
男(一般)	1.2%	2.0%	3.0%	5.4%	4.5%	3.1%
女(一般)	1.9%	5.8%	6.6%	4.8%	6.6%	4.9%
計(一般)	1.6%	4.0%	5.0%	5.1%	5.5%	4.1%

	身体	知的	精神	合計
障がい者	9.3%	8.8%	26.4%	14.1%

表 寂しさをととても・やや感じる割合

	小学生	中高生	若年期	壮年期	高齢期	合計
男(一般)	17.1%	22.3%	28.3%	30.6%	30.2%	25.3%
女(一般)	16.7%	31.2%	35.2%	40.5%	41.2%	31.7%
計(一般)	16.9%	27.0%	32.2%	35.7%	35.4%	28.6%

	身体	知的	精神	合計
障がい者	41.6%	42.6%	64.6%	48.6%

④現在の暮らしの状況（成人，障がい者）

回答者（成人）の現在の暮らしにおける経済的状況は，【ふつう】（55.7%），【やや苦しい】（21.6%），【苦しい】（10.1%），【ややゆとりがある】（8.0%），【ゆとりがある】（4.0%）であった。【苦しい】と【やや苦しい】の割合では，壮年期で最も多かった。なお，高齢者を対象とした同調査によると本市35.6%（2016年）と比較して今回は29.6%と低く，全国157市町村29.8%（2020年）とほぼ同じだった。回答者（全障がい区分）に対する同調査では，【ふつう】（49.6%），【やや苦しい】（26.5%），【苦しい】（16.5%）が上位を占めた。

表 現在の暮らしの経済的状況（単数回答）

	苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	ゆとりがある	無回答
若年期(男)	9.5%	19.3%	59.7%	7.1%	4.4%	0.0%
壮年期(男)	13.0%	23.3%	49.9%	9.5%	3.8%	0.5%
高齢期(男)	10.4%	23.0%	57.2%	7.0%	1.8%	0.7%
若年期(女)	7.7%	22.9%	55.1%	7.9%	6.2%	0.2%
壮年期(女)	11.2%	24.7%	51.9%	8.7%	3.6%	0.0%
高齢期(女)	9.3%	16.2%	60.1%	7.8%	4.3%	2.3%
合計(全体)	10.1%	21.6%	55.7%	8.0%	4.0%	0.6%

⑤生きがいの有無（全世代，障がい者）

生きがいの有無をたずねたところ，【ある】と回答した市民（成人）は71.8%であり，若年期の方が高かった。また，市民（障がい者）の同割合は47.0%となっており，特に精神障がい者で低かった。なお，調査方法や質問が異なるため単純比較はできないものの，時事通信社が2012年8月に行った全国世論調査によると，生きがいを持っている割合は，若年期約80%，壮年期約74%となっていた。また，高齢者を対象とした同調査によると，全国157市町村60.8%（2021年）となっている。

生きがいが【ある】と回答した市民（成人）に対して内容をたずねたところ，【友人との交流】をあげた割合が，壮年期（男）14.2%，壮年期（女）24.7%と他の年代より低かった。

表 生きがいのある割合

	若年期	壮年期	高齢期	合計
男（一般）	80.4%	72.6%	68.0%	73.3%
女（一般）	79.7%	67.9%	62.1%	70.4%
合計（一般）	80.0%	70.2%	65.2%	71.8%

	身体	知的	精神	合計
障がい者	50.6%	45.7%	43.7%	47.0%

表 生きがいの内容（複数回答）

一般市民	趣味	家族やペット	仕事・学業	友人との交流	健康づくり	社会活動
若年期(男)	70.5%	59.7%	35.3%	33.6%	13.6%	2.0%
壮年期(男)	67.5%	63.8%	39.6%	14.2%	14.2%	5.2%
高齢期(男)	70.9%	27.5%	18.5%	26.2%	39.4%	9.3%
若年期(女)	55.2%	74.6%	33.7%	37.8%	10.8%	1.7%
壮年期(女)	52.4%	72.7%	33.3%	24.7%	11.2%	6.0%
高齢期(女)	52.8%	35.4%	11.4%	37.8%	30.5%	8.9%
合計(全体)	61.7%	56.4%	29.0%	29.4%	19.6%	5.3%

障がい者	趣味	家族やペット	仕事・学業	友人との交流	健康づくり	社会活動
身体	45.4%	42.8%	16.4%	26.0%	24.0%	5.9%
知的	65.4%	38.0%	41.9%	10.7%	13.2%	1.7%
精神	56.0%	42.5%	22.5%	17.0%	24.0%	5.0%
合計	54.6%	41.2%	26.2%	18.7%	20.6%	4.3%

(2) 毎日の生活について

①外出の頻度（中高生，成人，障がい者）

回答者（成人，中高生）の新型コロナウイルス感染症拡大前の外出頻度は，【学校や仕事で平日は毎日外出する】（63.3%），【ふだんは家にいるが，近所のコンビニなどには出かける】（9.4%），【ふだんは家にいるが，自分の趣味に関する用事のみときだけ外出する】（7.9%），【人づきあいのために時々外出する】（6.2%），【学校や仕事で週に3～4日外出する】（6.8%），【遊び等で頻繁に外出する】（3.5%），【自室からは出るが，家からは出ない】（1.4%），【自室からほとんど出ない】（0.3%）という結果であった。

表 外出頻度（成人，中高生）（単数回答）

	ほぼ毎日	週に 3～4日	遊びで 頻繁に 出かける	人づきあいで 時々 出かける	趣味の ときだけ 外出する
中高生(男)	87.6%	3.3%	3.0%	1.3%	1.8%
若年期(男)	81.2%	9.8%	1.1%	3.0%	0.8%
壮年期(男)	81.3%	8.1%	1.4%	1.1%	1.6%
高齢期(男)	17.3%	7.9%	7.7%	15.1%	25.7%
中高生(女)	93.6%	2.4%	0.9%	1.1%	1.1%
若年期(女)	71.4%	8.4%	4.0%	3.7%	2.9%
壮年期(女)	65.9%	8.7%	3.3%	5.3%	5.1%
高齢期(女)	87.6%	3.3%	3.0%	1.3%	1.8%
合計(全体)	81.2%	9.8%	1.1%	3.0%	0.8%

	コンビニ には 出かける	家からは 出ない	自室から ほとんど 出ない	無回答
中高生(男)	1.0%	1.3%	0.3%	0.5%
若年期(男)	3.0%	0.8%	0.3%	0.0%
壮年期(男)	6.0%	0.3%	0.0%	0.3%
高齢期(男)	20.3%	2.0%	0.5%	3.6%
中高生(女)	0.4%	0.2%	0.2%	0.0%
若年期(女)	8.4%	1.1%	0.2%	0.0%
壮年期(女)	10.4%	0.3%	0.3%	0.8%
高齢期(女)	1.0%	1.3%	0.3%	0.5%
合計(全体)	3.0%	0.8%	0.3%	0.0%

②助けを求めることができると感じられる家族や親戚の有無（成人）

新型コロナ感染症拡大前において、助けを求めることができるくらい気楽に感じられる家族や親戚の有無をたずねたところ、【いない】と回答した市民（成人）の割合は6.8%となっており、年齢度ともに増加する傾向がみられる。

表 助けを求めることができるくらい気楽に感じられる家族や親戚の有無（単数回答）

	いない	1人	2人	3,4人	5～8人	9人以上	無回答
若年期(男)	7.6%	11.7%	23.2%	40.3%	14.2%	1.1%	1.9%
壮年期(男)	9.2%	18.2%	20.6%	35.5%	10.8%	2.2%	3.5%
高齢期(男)	9.5%	10.4%	26.6%	33.3%	12.2%	2.9%	5.2%
若年期(女)	4.0%	13.2%	25.3%	41.0%	14.1%	1.3%	1.1%
壮年期(女)	6.4%	15.0%	21.9%	37.9%	13.7%	2.5%	2.5%
高齢期(女)	4.5%	10.1%	25.5%	41.9%	11.4%	2.3%	4.3%
合計(全体)	6.8%	13.0%	24.0%	38.3%	12.8%	2.1%	3.1%

③助けを求めることができると感じられる友人の有無（成人）

新型コロナ感染症拡大前において、助けを求めることができるくらい気楽に感じられる友人の有無をたずねたところ、【いない】と回答した市民（成人）が29.9%と最も多く、特に壮年期男性で高くなっている。

表 助けを求めることができるくらい気楽に感じられる友人の有無（単数回答）

	いない	1人	2人	3,4人	5～8人	9人以上	無回答
若年期(男)	24.8%	13.4%	16.3%	27.8%	10.9%	5.7%	1.1%
壮年期(男)	38.8%	12.5%	16.0%	22.8%	5.1%	3.3%	1.6%
高齢期(男)	33.3%	14.4%	20.7%	22.7%	4.3%	1.8%	2.7%
若年期(女)	25.1%	15.6%	21.4%	24.7%	9.5%	3.5%	0.2%
壮年期(女)	32.8%	16.0%	19.8%	23.9%	5.3%	1.0%	1.0%
高齢期(女)	25.0%	15.7%	25.0%	25.5%	4.3%	0.8%	3.8%
合計(全体)	29.9%	14.7%	20.0%	24.5%	6.6%	2.6%	1.7%

④知人・友人・近隣住民の状態の把握，自分自身・家族への不安（成人）

回答者（成人）に対して，知人・友人・近隣住民の状態の把握，及び自分自身・家族への不安についてたずねたところ，両者とも【無回答】が最も多い結果となった。状態を把握している人，及び不安のある人の割合としては，【ひきこもり】，【社会から孤立しているひとり暮らし】，【高齢の親が障がいのある子を支えている】などがともに上位を占めた。

表 知人・友人・近隣住民の状態の把握（複数回答）

	ひきこもり	孤立ひとり暮らし	8050	障がいの子を支えている	ダブルケア
若年期(男)	9.0%	3.0%	0.5%	2.7%	1.1%
壮年期(男)	8.1%	8.4%	2.7%	3.0%	2.2%
高齢期(男)	10.8%	9.2%	2.7%	3.6%	1.4%
若年期(女)	7.9%	3.1%	2.4%	3.7%	3.3%
壮年期(女)	9.4%	3.8%	3.6%	3.1%	1.5%
高齢期(女)	6.3%	4.8%	3.0%	2.5%	0.8%
合計(全体)	8.6%	5.4%	2.5%	3.1%	1.7%

	ヤングケアラー	孤立して子育てしている	障がい疑われる	無回答
若年期(男)	0.0%	1.6%	1.6%	85.0%
壮年期(男)	0.3%	0.8%	2.4%	78.9%
高齢期(男)	0.0%	0.2%	2.3%	75.9%
若年期(女)	0.7%	3.1%	3.7%	82.8%
壮年期(女)	0.8%	1.0%	2.5%	80.2%
高齢期(女)	0.0%	1.0%	1.5%	85.1%
合計(全体)	0.3%	1.3%	2.4%	81.2%

表 自分自身または家族の状態への不安（複数回答）

	ひきこもり	孤立ひとり暮らし	8050	障がいの子を支えている	ダブルケア
若年期(男)	5.7%	2.7%	1.1%	2.7%	2.7%
壮年期(男)	4.6%	8.1%	0.8%	1.6%	2.4%
高齢期(男)	3.6%	5.6%	2.3%	2.3%	0.7%
若年期(女)	6.4%	2.6%	1.8%	2.4%	3.1%
壮年期(女)	5.3%	5.6%	2.0%	0.8%	3.3%
高齢期(女)	2.0%	2.8%	0.5%	1.5%	0.3%
合計(全体)	4.6%	4.5%	1.4%	1.9%	2.1%

	ヤングケアラー	孤立して子育てしている	障がい疑われる	無回答
若年期(男)	0.0%	1.1%	0.5%	87.2%
壮年期(男)	0.0%	0.8%	2.2%	83.5%
高齢期(男)	0.0%	0.0%	2.9%	84.9%
若年期(女)	0.0%	2.2%	2.9%	83.9%
壮年期(女)	0.0%	2.0%	3.3%	85.5%
高齢期(女)	0.0%	1.0%	1.5%	92.7%
合計(全体)	0.0%	1.2%	2.3%	86.2%

⑤複雑化した困りごとや制度の狭間の問題の把握（民生委員・福祉事業者）

回答者（民生委員・児童委員）に対して、複雑化・複合化した困りごとや制度の狭間の問題を抱える世帯の把握状況をたずねたところ、【把握している】（33.7%）、【把握していない】（32.1%）、【わからない】（27.5%）であった。他方、回答者（福祉事業者）複雑化・複合化した困りごとや制度の狭間の問題（具体的事例について）について伺ったところ、【ある】（43.3%）、【ない】（43.3%）、【わからない】（10.1%）であった。

表 問題を抱える世帯の把握状況

	把握している (ある)	把握していない (ない)	わからない	無回答	把握している (ある)
民生委員	33.7%	32.1%	27.5%	6.7%	33.7%
福祉事業者	43.3%	43.3%	10.1%	3.3%	43.3%

⑥複雑化した困りごとや制度の狭間の問題の内容（民生委員，福祉事業者）

複雑化した困りごとや制度の狭間の問題を把握しているとした回答者（民生委員・児童委員，福祉事業者）に対して、その内容についてたずねたところ、民生委員・児童委員では【社会から孤立しているひとり暮らし】（34.7%）、【ひきこもりや不登校】（32.6%）、【要介護認定がないが日常生活に困る高齢者】（30.6%）であった一方、福祉事業者では【高齢の家族を介護している（老々介護）】（32.9%）、【社会から孤立しているひとり暮らし】（11.5%）、【日常生活に困っている高齢者】（10.2%）であった。

表 複雑化した困りごとや制度の狭間の問題（複数回答）

困りごと	民生委員	福祉事業者		
		介護	障がい	児童
ひきこもりや不登校	32.6%	2.5%	7.8%	9.7%
社会から孤立しているひとり暮らし	34.7%	14.2%	6.9%	0%
高齢の親が無職でひきこもりの同居の子を支えている	15.7%	4.3%	2.8%	0.6%
高齢の親が障がいのある子を支えている	16.5%	4.5%	26.9%	0%
親の介護と子育てを同時に抱えている	3.7%	7.3%	10.3%	6.7%
18歳未満の方が家事や家族の介護をしている	1.7%	0.6%	6.6%	0.6%
社会から孤立して子育てしている	5.8%	0.2%	2.8%	20.6%
障がい者手帳を取得していないが、障がいが疑われる	5.4%	5.1%	19.1%	22.4%
高齢者が高齢の家族を介護している	28.9%	43.9%	6.3%	1.8%
要介護認定はないが、日常生活に困っている高齢者	30.6%	12.5%	4.1%	5.5%
家庭内暴力、子どもや高齢の親への虐待	7.0%	3.9%	4.4%	9.1%
その他	16.9%	1.0%	2.2%	23.0%

⑦福祉的課題が患者の健康に影響を及ぼしたと考えられる事例（医療機関）

回答者（医療機関）に対して、福祉的課題が患者の健康に影響を及ぼしたと考えられる事例があるかたずねたところ、【ある】（43.2%）、【ない】（32.9%）等であった。

図 福祉的課題が患者の健康に影響を及ぼしたと考えられる事例（単数回答）

	ある	ない	わからない	無回答
病院・診療所	61.2%	18.2%	19.8%	0.8%
歯科診療所	29.1%	45.3%	25.0%	0.6%
薬局	41.5%	32.1%	20.8%	5.7%
合計	43.2%	32.9%	22.4%	1.5%

⑧福祉的課題の内容（医療機関）

回答者（医療機関）に対して、福祉的課題が患者の健康に影響を及ぼしたと考えられる事例が【ある】を選択した回答者に対して、その具体的な内容をたずねたところ、【高齢者の介護や日常生活などのこと】（82.0%）、【生活困窮のこと】（51.8%）、【ひきこもりや不登校のこと】（28.8%）、【障がい者の日常生活や就労などのこと】（23.7%）、【子育てや子どもに関する悩みごと】（21.6%）、【家庭内の暴力や虐待などのこと】（16.5%）、【近隣や親戚・知人とのトラブル】（15.1%）であった。

No.	福祉的課題	病院・診療所	歯科診療所	薬局	合計
1	高齢者の介護や日常生活などのこと	83.8%	76.7%	86.4%	82.0%
2	生活困窮のこと	62.2%	39.5%	40.9%	51.8%
3	子育てや子どもに関する悩みごと	28.4%	16.3%	9.1%	21.6%
4	家庭内の暴力や虐待などのこと	24.3%	7.0%	9.1%	16.5%
5	障がい者の日常生活や就労などのこと	31.1%	16.3%	13.6%	23.7%
6	ひきこもりや不登校のこと	37.8%	23.3%	9.1%	28.8%
7	近隣や親戚・知人とのトラブル	24.3%	2.3%	9.1%	15.1%
8	その他	1.4%	4.7%	4.5%	2.9%
9	無回答	1.4%	0.0%	0.0%	0.7%

⑨社会的孤立・孤独の状態とみられる患者の有無（医療機関）

回答者（医療機関）に対して、ここ1年の間に社会的孤立・孤独の状態とみられる患者がいたかたずねたところ、【いない】（39.1%）、【わからない】（36.6%）、【いた】（23.0%）であった。

表 社会的孤立・孤独の状態とみられる患者の有無（単数回答）

	いた	いない	わからない	無回答
病院・診療所	40.3%	28.9%	27.3%	0.8%
歯科診療所	9.5%	45.9%	42.6%	2.0%
薬局	15.1%	43.4%	41.5%	0%
合計	23.0%	39.1%	36.6%	1.2%

⑩社会的孤立・孤独の状態とみられる患者数（医療機関）

ここ1年の間に社会的孤立・孤独の状態とみられる患者が【いた】を選択した回答者（医療機関）に対してその割合をたずねた。ここでは同割合に1日あたりの患者数と1か月あたりの診療日数を掛けて1か月あたりの人数規模を算出したところ、【10人未満】（44.8%）、【10人以上50人未満】（40.3%）、【100人以上】（10.4%）、【50人以上100人未満】（4.5%）という結果であった。

表 社会的孤立・孤独の状態とみられる患者の人数（単数回答）

	10人未満	10人以上 50人未満	50人以上 100人未満	100人以上
病院・診療所	38.3%	44.7%	4.3%	12.8%
歯科診療所	64.3%	35.7%	0%	0%
薬局	50.0%	16.7%	0%	16.7%
合計	44.8%	40.3%	4.5%	10.4%

(3) たすけあいについて

①心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（成人、障がい者）

心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人について「いる」と回答した市民（成人）は94.1%であり、男性・高齢期で低くなっており、高齢期（男）では約10人に1人が情緒的支援者が「いない」状況ある。高齢者を対象とした同調査によると本市92.1%（2016年）と比較して今回は92.6%とほぼ同じであり、全国157市町村93.2%（2020年）と比較すると若干低くなっている。また、市民（障がい者）の同割合は88.4%となっている。

表 情緒的支援者がいる割合

	若年期	壮年期	高齢期	合計
男（一般）	93.5%	90.5%	91.2%	91.7%
女（一般）	98.0%	96.7%	94.2%	96.4%
合計（一般）	96.0%	93.7%	92.6%	94.1%

	身体	知的	精神	合計
障がい者	90.3%	87.7%	86.7%	88.4%

②看病や世話をしてくれる人（成人，障がい者）

病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人について「いる」と回答した市民（成人）は92.9%であり，男性・若年期で低い傾向があるが，特に高齢期（男）で約10人に1人が手段的支援者が「いない」状況にある。高齢者を対象とした同調査によると本市91.1%（2016年）と比較して今回は93.6%と高くなっており，全国157市町村91.7%（2020年）と比較しても高くなっていく。また，市民（障がい者）の同割合は87.3%となっている。

表 手段的支援者がいる割合

	若年期	壮年期	高齢期	合計
男（一般）	89.6%	93.0%	94.6%	92.5%
女（一般）	93.6%	93.6%	92.4%	93.2%
合計（一般）	91.8%	93.3%	93.6%	92.9%

	身体	知的	精神	合計
障がい者	90.2%	92.6%	77.5%	87.3%

③地域の「絆」や「つながり」（全世代，障がい者）

地域の中で「絆」や「つながり」を感じるかたずねたところ，【感じる】と回答した市民（全世代）は37.4%，市民（成人）は27.7%となっており，前回の同調査（2017年，成人対象43.7%）と比較して16.0ポイント低くなっていた。

地域の「絆」や「つながり」で【感じる】と回答した方に対し，感じる場面をたずねたところ，多くの項目で前回調査（2017年）より低くなっていた。

表 地域の「絆」や「つながり」（単数回答）

	感じる	感じない	わからない	無回答	合計
小学生(男)	57.1%	8.3%	32.6%	2.0%	100.0%
中高生(男)	37.5%	18.5%	42.3%	1.8%	100.0%
若年期(男)	16.1%	52.6%	30.8%	0.5%	100.0%
壮年期(男)	20.9%	51.2%	27.6%	0.3%	100.0%
高齢期(男)	39.0%	40.5%	18.9%	1.6%	100.0%
小学生(女)	58.2%	5.3%	35.4%	1.1%	100.0%
中高生(女)	41.4%	18.4%	38.7%	1.5%	100.0%
若年期(女)	18.9%	51.1%	29.7%	0.2%	100.0%
壮年期(女)	24.2%	51.4%	23.4%	1.0%	100.0%
高齢期(女)	46.0%	32.3%	18.4%	3.3%	100.0%
合計(全体)	37.4%	31.1%	30.1%	1.3%	100.0%

表 地域との「絆」や「つながり」の感じ方における主観的幸福感上位割合（8点以上）

	小学生	中高生	若年期	壮年期	高齢期	合計
感じる	84.7%	70.7%	52.1%	56.5%	55.0%	69.5%
感じない	58.0%	52.6%	38.7%	27.7%	34.9%	37.2%
差	26.7pt	18.0pt	13.4pt	28.8pt	20.1pt	32.3pt

表 地域で「絆」や「つながり」を感じる場面（成人）

	あいさつや会話が できる	お互いの家を行き来 できる	困ったとき気軽に 相談できる	支え合い・助け合える	気軽にイベントに 参加できる
前回(n=452)	91.8%	30.5%	31.4%	30.5%	36.9%
今回(n=672)	87.8%	25.9%	25.9%	30.8%	28.9%
前回との差	4.0pt	4.6pt	5.5pt	-0.3pt	8.0pt

④隣近所にして欲しい・できる手助けの内容（成人）

回答者（成人）に対して、隣近所の人にどのような手助けをしてあげられるか、また、してもらいたいかをたずねたところ、両者ともに【災害時の手助け】、【安否確認の手助け】、【話し相手】が多く「して欲しい」より「してあげられる」の方が多かった。一方で、「して欲しい手助けが特にない」が約2人に1人、「してあげられる手助けが特にない」が約4人に1人を占めた。

表 隣近所にしてほしい手助けの内容（複数回答）

	安否確認 の声かけ	災害時の 手助け	話し相手	買い物	ゴミ出し	子どもの 預かり
若年期(男)	24.3%	41.1%	7.6%	1.6%	7.1%	5.7%
壮年期(男)	24.1%	39.8%	6.2%	1.6%	5.1%	2.4%
高齢期(男)	18.5%	29.3%	10.4%	2.7%	4.7%	0.2%
若年期(女)	24.9%	44.9%	9.9%	1.1%	4.4%	7.3%
壮年期(女)	24.7%	45.3%	8.1%	1.3%	2.3%	3.1%
高齢期(女)	22.5%	28.5%	18.4%	3.8%	5.8%	0.0%
合計(全体)	23.1%	38.1%	10.2%	2.0%	4.9%	3.1%

	入院など 外出の手伝い	その他	特にない	無回答
若年期(男)	1.9%	0.3%	47.1%	0.8%
壮年期(男)	1.4%	0.0%	48.8%	0.3%
高齢期(男)	4.1%	0.7%	53.2%	3.4%
若年期(女)	1.1%	0.9%	41.6%	1.1%
壮年期(女)	0.5%	1.3%	41.7%	0.8%
高齢期(女)	4.0%	0.5%	43.2%	6.6%
合計(全体)	2.2%	0.6%	45.9%	2.2%

表 隣近所にしてほしい手助けの内容（複数回答）

	安否確認 の声かけ	災害時の 手助け	話し相手	買い物	ゴミ出し	子どもの 預かり
若年期(男)	38.7%	58.3%	23.2%	11.2%	17.4%	6.8%
壮年期(男)	42.5%	65.9%	22.2%	9.8%	19.0%	4.9%
高齢期(男)	41.4%	45.5%	28.2%	7.0%	18.0%	1.8%
若年期(女)	45.8%	54.8%	35.7%	10.4%	11.7%	7.9%
壮年期(女)	55.5%	56.2%	34.1%	20.6%	13.5%	10.9%
高齢期(女)	44.4%	27.8%	44.4%	16.4%	11.9%	3.0%
合計(全体)	44.8%	51.1%	31.5%	12.4%	15.1%	5.9%

	入院など 外出の手伝い	その他	特にない	無回答
若年期(男)	7.6%	0.3%	27.2%	0.5%
壮年期(男)	7.6%	1.1%	23.6%	0.3%
高齢期(男)	7.4%	1.8%	26.6%	3.8%
若年期(女)	5.7%	1.1%	20.9%	1.5%
壮年期(女)	11.5%	2.5%	19.3%	1.0%
高齢期(女)	9.1%	1.0%	22.2%	7.6%
合計(全体)	8.1%	1.3%	23.3%	2.5%

⑤地域において特に必要だと思う生活支援（福祉事業者）

回答者（福祉事業者）に対して、すべての市民が住み慣れた地域（住宅）で生活をするために、地域において特に必要だと思う医療介護以外の生活支援についてたずねたところ、【声かけ、見守り等による安否確認】（46.0%）、【生活に関する相談・話し相手】（38.9%）、【利用者家族等への助言、支援】（29.0%）、【移送ドライバー、通院等の外出支援】（26.3%）等が上位を占めた。

表 地域において特に必要だと思う生活支援（複数回答）

	掃除、洗濯、炊事等の家事	ごみ出し	食材や日用品等の買い物代行	草取りや水やり等の庭の手入れ	声かけ、見守り等による安否確認	病院への付き添い
介護	16.2%	18.4%	21.6%	5.9%	43.2%	27.6%
障がい	21.4%	7.1%	10.2%	5.1%	48.0%	17.3%
児童	17.1%	1.2%	9.8%	2.4%	50.0%	7.3%
合計	17.8%	11.5%	15.9%	4.9%	46.0%	20.3%

	市役所や銀行、郵便局への付き添い	移送ドライバー、通院等の外出支援	健康体操や筋力維持のための運動指導	認知症予防のための脳トレや運動の教室	サロンや地域カフェなど交流の場	弁当や食材配達等の配食
介護	28.1%	7.6%	5.9%	12.4%	10.8%	28.1%
障がい	27.6%	6.1%	1.0%	11.2%	12.2%	27.6%
児童	20.7%	1.2%	2.4%	20.7%	8.5%	20.7%
合計	26.3%	5.8%	3.8%	14.0%	10.7%	26.3%

	生活に関する相談・話し相手	利用者家族等への助言、支援	その他	無回答
介護	27.6%	19.5%	1.6%	6.5%
障がい	43.9%	38.8%	3.1%	4.1%
児童	58.5%	39.0%	3.7%	8.5%
合計	38.9%	29.0%	2.5%	6.3%

⑥災害時の避難の際に頼れる人（成人）

回答者（成人）に対して、災害時の避難の際に頼れる人は誰かをたずねたところ、【同居の家族】（74.7%）が最も多く、次いで【近所の家族や親戚】（31.2%）、【近所の友人・知人】（17.5%）、【隣近所の人】（16.2%）、【いない】（8.3%）の順であった。

表 災害時の避難の際に頼れる人（複数回答）

	同居の家族	近所の家族 や親戚	隣近所の人	近所の 友人・知人	災害時 要援護者支援
若年期(男)	67.6%	32.4%	10.4%	22.3%	3.5%
壮年期(男)	72.1%	29.0%	14.6%	14.1%	4.9%
高齢期(男)	74.8%	28.2%	24.1%	12.6%	4.1%
若年期(女)	81.5%	31.9%	10.6%	19.6%	2.0%
壮年期(女)	82.2%	35.9%	11.7%	18.1%	2.5%
高齢期(女)	68.4%	30.1%	25.3%	18.7%	5.6%
合計(全体)	74.7%	31.2%	16.2%	17.5%	3.7%

	その他	いない	支援は 必要ない	無回答
若年期(男)	2.7%	10.4%	4.4%	0.5%
壮年期(男)	1.4%	12.7%	3.0%	0.0%
高齢期(男)	1.4%	8.1%	3.4%	0.9%
若年期(女)	2.9%	6.8%	1.1%	1.3%
壮年期(女)	2.8%	6.9%	1.5%	0.3%
高齢期(女)	3.3%	5.3%	1.3%	3.3%
合計(全体)	2.4%	8.3%	2.4%	1.1%

⑦「地域共生社会」の認知度（全世代）

「地域共生社会」を知っているかたずねたところ、【知らない】（全世代 48.6%）が最も多く、次いで【名前は聞いたことがあるが意味は知らない】（全世代 28.9%）、【知っている】（全世代 20.1%）という結果であった。世代別で見ると中高生の認知度が最も高かった。

表 「地域共生社会」の認知度（単数回答）

	知っている	意味は 知らない	知らない	無回答	合計
小学生(男)	12.1%	19.7%	65.2%	3.0%	100.0%
中高生(男)	24.8%	24.3%	47.6%	3.3%	100.0%
若年期(男)	17.2%	31.6%	49.9%	1.4%	100.0%
壮年期(男)	18.2%	32.8%	48.8%	0.3%	100.0%
高齢期(男)	25.0%	32.2%	39.0%	3.8%	100.0%
小学生(女)	11.1%	28.4%	58.8%	1.8%	100.0%
中高生(女)	35.2%	30.1%	33.2%	1.5%	100.0%
若年期(女)	18.5%	34.1%	45.8%	1.5%	100.0%
壮年期(女)	18.8%	29.8%	50.1%	1.3%	100.0%
高齢期(女)	23.0%	27.3%	42.4%	7.3%	100.0%
合計(全体)	20.1%	28.9%	48.6%	2.5%	100.0%

(4) 地域での活動について

①市民活動への参加意欲、参加しない理由（成人、障がい者）

市民活動のいずれかに参加したいと思うか市民（成人）に対してたずねたところ、【わからない】（35.2%）、【参加するつもりはない】（27.0%）、【現在参加していないが今後参加したい】（25.2%）、【現在参加しており今後も続けたい】（8.5%）であった。

本市が行った2012年及び2017年の同調査（成人）と比較すると、【今後も参加したい】と【今後は参加したい】は減少しており、2012年調査と今回の調査を比較すると両者あわせて32.8ポイント減少している。一方、【参加するつもりはない】と【わからない】は増加傾向がみられ2012年調査と今回の調査を比較すると両者あわせて30.1ポイント増加している。

同質問において「参加するつもりはない」を選択した回答者（成人）に対して理由をたずねたところ、【仕事や家事が忙しく活動する時間がない】（40.3%）、【興味・関心がない】（29.9%）、【どこでどのような活動をしているか知らない】（10.4%）、【きっかけがない】（9.2%）、【活動場所への移動手段がない】（3.1%）、【近くで活動している団体がない】（1.1%）という結果であった。

表 市民活動への参加意欲（単数回答）【市民】

	参加しており 今後も 続けたい	参加してい ないが今後 参加したい	参加するつ もりはない	わから ない	無回答	合計
若年期(男)	4.4%	27.0%	36.2%	32.4%	0.0%	100.0%
壮年期(男)	7.6%	30.6%	24.4%	35.2%	2.2%	100.0%
高齢期(男)	16.7%	17.8%	28.2%	29.5%	7.9%	100.0%
若年期(女)	2.6%	32.4%	27.1%	36.8%	1.1%	100.0%
壮年期(女)	7.9%	27.5%	22.6%	38.9%	3.1%	100.0%
高齢期(女)	11.6%	16.2%	24.0%	38.4%	9.8%	100.0%
合計(全体)	8.5%	25.2%	27.0%	35.2%	4.1%	100.0%

表 市民活動へ参加しない理由（単数回答）

	近くで 活動している	きっかけがない	どこで活動を しているか 知らない	移動手段がない
若年期(男)	1.5%	11.3%	6.8%	0.0%
壮年期(男)	2.2%	12.2%	11.1%	1.1%
高齢期(男)	1.6%	8.8%	19.2%	6.4%
若年期(女)	0.0%	8.1%	4.9%	0.8%
壮年期(女)	1.1%	2.2%	9.0%	1.1%
高齢期(女)	0.0%	11.6%	11.6%	9.5%
合計(全体)	1.1%	9.2%	10.4%	3.1%

	活動する 時間がない	興味・関心 がない	無回答	合計
若年期(男)	42.9%	36.1%	1.5%	100.0%
壮年期(男)	47.8%	22.2%	3.3%	100.0%
高齢期(男)	16.0%	36.0%	12.0%	100.0%
若年期(女)	58.5%	27.6%	0.0%	100.0%
壮年期(女)	64.0%	21.3%	1.1%	100.0%
高齢期(女)	15.8%	31.6%	20.0%	100.0%
合計(全体)	40.3%	29.9%	6.1%	100.0%

表 市民活動への参加状況別の主観的幸福感上位（8点以上）割合

	若年期	壮年期	高齢期	合計
参加中	46.4%	58.6%	51.3%	52.7%
意向なし	42.1%	31.5%	38.0%	37.8%
差	4.3%	27.2%	13.2%	14.9%

表 市民活動への参加意欲【経年比較】（成人）

	参加しており 今後も 続けたい	参加してい ないが今後参加 したい	参加するつも りはない	わから ない	無回答
H24	9.9%	56.6%	12.6%	19.4%	1.1%
H29	11.5%	34.2%	16.5%	31.4%	6.4%
R3	8.5%	25.2%	27.0%	35.2%	4.1%

■市民活動への参加意欲，参加しない理由（障がい者）

市民活動のいずれかに参加したいと思うか市民（障がい者）たずねたところ，【わからない】（41.1%）【参加するつもりはない】（35.9%），【現在参加していないが今後参加したい】（13.4%），【現在参加しており今後も続けたい】（5.2%）であった。

同質問で【参加するつもりはない】を選択した市民（障がい者）について，その理由をたずねたところ，【興味・関心がない】（26.1%），【バリアがある（物理的・身体的）】（19.7%），【その他】（14.5%），【バリアがある（心理的）】（12.1%），【仕事や家事が忙しく活動する時間がない】（7.6%），【どこでどのような活動をしているか知らない】（6.9%），【きっかけがない】（5.9%），【活動場所への移動手段がない】（2.5%）という結果であった。

表 市民活動への参加意欲（単数回答）【障がい者】

	参加しており 今後も 続けたい	参加してい ないが今後参加 したい	参加するつも りはない	わから ない	無回答	合計
身体 n=601	8.5%	10.3%	42.4%	32.9%	5.8%	100.0%
知的 n=512	2.9%	13.5%	29.1%	51.0%	3.5%	100.0%
精神 n=458	3.3%	17.5%	34.9%	40.6%	3.7%	100.0%
合計 n=1571	5.2%	13.4%	35.9%	41.1%	4.5%	100.0%

表 市民活動に参加しない理由（単数回答）【障がい者】

	近所に活動 団体がない	きっかけが ない	活動場所・内 容を知らない	移動手段が ない	時間がない
身体 n=255	0.4%	5.1%	3.5%	3.5%	7.1%
知的 n=149	0.0%	6.7%	10.1%	2.0%	6.0%
精神 n=160	0.6%	6.3%	9.4%	1.3%	10.0%
合計 n=564	0.4%	5.9%	6.9%	2.5%	7.6%

	興味・関心 がない	心理的バリア	物理的バリア	その他	無回答
身体 n=255	22.0%	3.5%	31.4%	17.6%	5.9%
知的 n=149	29.5%	13.4%	12.8%	14.1%	5.4%
精神 n=160	29.4%	24.4%	7.5%	10.0%	1.3%
合計 n=564	0.4%	5.9%	6.9%	2.5%	7.6%

(5) 保健福祉サービスについて

①福祉サービスに関する情報提供の満足度（成人）

回答者（成人）に対して、本市の保健福祉サービスに関する情報提供（各課の窓口、広報誌やホームページの掲載、出前保健福祉講座など）についての満足度をたずねたところ、【満足している】と【ほぼ満足している】

（51.3%）、【不満である】と【あまり満足していない】（38.5%）という結果であった。

表 保健福祉サービスに関する情報提供の満足度（単数回答）

	満足している	ほぼ満足している	あまり満足していない	不満である	無回答	合計
若年期(男)	3.5%	48.8%	34.9%	6.5%	6.3%	100.0%
壮年期(男)	3.0%	37.9%	41.7%	8.1%	9.2%	100.0%
高齢期(男)	4.3%	47.1%	29.7%	4.1%	14.9%	100.0%
若年期(女)	2.6%	47.6%	36.6%	6.6%	6.6%	100.0%
壮年期(女)	1.5%	53.9%	32.8%	6.6%	5.1%	100.0%
高齢期(女)	3.8%	53.5%	20.7%	3.8%	18.2%	100.0%
合計(全体)	3.1%	48.2%	32.6%	5.9%	10.1%	100.0%

②保健福祉サービスに関する情報提供に対する不満の理由（成人）

上記において「あまり満足していない」及び「不満である」を選択した回答者（成人）に対して理由をたずねたところ、【新聞を購読していないので広報紙が届かない】（33.5%）、【出前保健福祉講座がいつ行われているかわからない】

（26.8%）、【パソコンを持っていない、操作できないためホームページをみられない】（16.8%）という結果であった。

表 保健福祉サービスに関する情報提供に対する不満の理由（単数回答）

	新聞を購読していない	ホームページをみられない	講座がわからない	その他	無回答	合計
若年期(男)	44.1%	4.6%	25.0%	23.0%	3.3%	100.0%
壮年期(男)	35.3%	8.7%	29.9%	17.9%	8.2%	100.0%
高齢期(男)	12.0%	47.3%	26.0%	10.0%	4.7%	100.0%
若年期(女)	44.9%	2.6%	26.5%	21.9%	4.1%	100.0%
壮年期(女)	39.4%	7.7%	30.3%	16.8%	5.8%	100.0%
高齢期(女)	14.4%	47.4%	19.6%	4.1%	14.4%	100.0%
合計(全体)	33.5%	16.8%	26.8%	16.7%	6.2%	100.0%

③今後、市が特に優先的に取り組むべき保健福祉に関する取組（成人）

市が特に優先的に取り組むべき保健福祉に関する取組は何かたずねたところ、【身近なところでの窓口相談の充実】（成人 30.5%、障がい者 27.1%）、【高齢者、障がい者のサービスの充実】（成人 29.8%、障がい者 48.2%）などが上位を占めた。一方、【住民がともに支え合う仕組みづくりへの支援】（成人 17.5%、障がい者 12.5%）、【交流できる居場所づくり】（成人 15.9%、障がい者 19.5%）など支え合いや交流の場を求める意見もあった。

表 市が特に優先的に取り組むべき保健福祉に関する取組（複数回答）

	支え合う 仕組みづくり への支援	窓口相談の 充実	保健 サービスの 充実	高齢、 障がい者の サービスの 充実	保育や 児童福祉 施設の充実	生活困窮者 の自立支援
若年期(男)	18.3%	24.0%	36.5%	21.0%	35.1%	12.0%
壮年期(男)	18.4%	33.3%	26.8%	34.4%	18.2%	19.5%
高齢期(男)	20.9%	32.9%	24.1%	38.5%	6.1%	15.3%
若年期(女)	11.9%	20.9%	37.4%	20.3%	45.4%	16.5%
壮年期(女)	13.2%	36.4%	29.0%	31.6%	21.6%	19.1%
高齢期(女)	23.0%	36.1%	18.2%	33.6%	10.1%	10.9%
合計(全体)	17.5%	30.5%	28.7%	29.9%	22.9%	15.6%

	孤立者への 支援	介護者への 支援	保健福祉 情報提供	ボランティア 参加促進	福祉教育の 充実	居場所 づくり
若年期(男)	8.2%	17.2%	10.9%	4.4%	8.2%	14.7%
壮年期(男)	10.6%	13.3%	17.9%	6.0%	4.3%	14.6%
高齢期(男)	7.4%	13.7%	17.3%	3.4%	4.1%	16.2%
若年期(女)	11.0%	19.4%	12.8%	5.5%	6.6%	15.0%
壮年期(女)	15.0%	24.4%	14.5%	3.3%	3.6%	17.8%
高齢期(女)	5.6%	16.7%	17.7%	5.8%	4.0%	17.2%
合計(全体)	9.6%	17.5%	15.2%	4.7%	5.1%	15.9%

	その他	特にない	無回答
若年期(男)	2.7%	13.6%	2.2%
壮年期(男)	3.5%	8.7%	2.7%
高齢期(男)	2.0%	8.3%	8.8%
若年期(女)	5.7%	6.6%	3.1%
壮年期(女)	3.6%	6.9%	2.0%
高齢期(女)	1.5%	9.1%	10.1%
合計(全体)	3.2%	8.7%	4.9%

④バリアフリー法で定める基準への適合（公共的施設事業者）

回答者（公共的施設事業者）に対して、高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）で定める基準への適合状況をたずねたところ、【適合】（41.9%）、【わからない】（39.8%）、【不適合】（16.2%）という結果であった。

表 バリアフリー法で定める基準への適合（単数回答）

		適合	不適合	わからない	無回答	合計
医療機関	病院・診療所	43.8%	16.5%	36.4%	3.3%	100.0%
	歯科診療所	37.2%	18.9%	43.9%	0.0%	100.0%
	薬局	49.1%	9.4%	37.7%	3.8%	100.0%
公共的施設	金融・郵便局	46.8%	4.5%	44.1%	4.5%	100.0%
	スーパー等	20.0%	42.5%	37.5%	0.0%	100.0%
	その他業種	51.1%	19.1%	29.8%	0.0%	100.0%
合計		41.9%	16.2%	39.8%	2.1%	100.0%

⑤バリアフリーの推進のために重要だと思う取組（公共的施設事業者）

回答者（公共的施設事業者）に対して、バリアフリーの推進のために重要だと思う取組は何かたずねたところ、【誰もが利用しやすいように建物や道路、交通機関などを整備すること】（41.5%）、【高齢者や障がいのある方に対し、個々に思いやりを持って行動すること】（40.2%）等が上位を占めた。

表 バリアフリーの推進のために重要だと思う取組（複数回答）

		建物、道路、交通機関の整備	利用者サービスの工夫	思いやりを持って行動	行政が周知・啓発を推進	その他	無回答
医療機関	病院・診療所	61.2%	38.0%	55.4%	38.0%	5.0%	2.5%
	歯科診療所	49.3%	32.4%	45.9%	32.4%	4.7%	3.4%
	薬局	45.3%	20.8%	45.3%	26.4%	0.0%	5.7%
公共的施設	金融・郵便局	22.5%	9.0%	19.8%	15.3%	0.9%	0.0%
	スーパー等	12.5%	7.5%	22.5%	12.5%	0.0%	0.0%
	その他業種	31.9%	38.3%	40.2%	26.7%	2.7%	2.1%